

入選

立川 花暖 (たちかわ かのん) みなみ野君田小 6年生

作品名：光を失って心が見えた

図 書：光を失って心が見えた 全盲先生のメッセージ

私はこの淑則先生のことを昨年の二十四時間テレビで知りました。題名を見て「心が見えた」とは、私はもう無理だと思っていたクラスの担任ができたことで自信がついたということなのかなと思いました。しかし私自身体験したり、本を読んでいくうちに目が見えないからこそ大事な事に気付けることがあるということが分かりました。

淑則先生は二十八歳のときに突然右目に網膜剥離を発症しました。その後、三十四歳のときに左目も網膜剥離で全盲となり、教師ができなくなりました。そこで弱視で高校教師をしている宮城先生に出会い「新井さんも必ず教師にもどることができる」と言われ、再び教師にもどりたと思いました。その後ノーマライゼーション・教育ネットワークに参加し、養護学校への復職を支援してもらい、九年かけて中学校の教師にもどることができました。私が先生の立場で、全盲になったらすごくショックで不自由だし、希望がなくなっていたと思います。そしてまた、教師になりたいと思えず家から出られずに、布団に寝たきりで、一生を終えていたかもしれません。淑則先生も全盲になった時「死んでしまいたい」と希望がなくなっていました。そんな先生を支えたのは家族でした。私の家族が目が見えなくなったら、自分のすごく大切な人たちだから、自分もショックを受けるけど、いつも支えてもらっているから、自分にできることは、がんばって支えてあげたいです。きっと淑則先生の家族も同じ気持ちで前を向いてほしいという思いで先生と病気に立ち向かったことでしょう。

淑則先生は、視覚障害のある教師として、中学校の教壇に立つまで九年かかりましたが、九年間の経験から「今の自分を受け入れ、自分のできることや自分の役割は何だろうと考えられるようになった。だから、中学校に再び戻るのに九年間もかかってしまったけれども、自分にとっては必要な時間だったと思っている」と本の中で言っています。この文を読んで最後まであきらめず九年間自分にとって必要な時間だと思えたのはすごいと思いました。支えてくれた人がいたからこそ強く生きていけたと思います。

「見えなくなって見えたもの」—それは、「人の心」と淑則先生は言いました。目が見えなくなって人の心の優しさや心の温かさがよく分かるようになり、

人の表情も分からない分、その人の発する、言葉や雰囲気はその人の優しさや温かさが分かると言いました。私は、教師に戻れたことで自信が付いたと予想していましたが、つらい経験をしたからこそ、私よりももっと大切なことに気付いていました。

私は一時間家でトイレと昼食のときに、目かくしをして淑則先生の気持ちを知ろうとしました。たった一時間でしたが、とてもこわかったです。私はどこになにがあるかだいたい分かってましたが淑則先生は、知らない道を歩いていて、私以上にこわい思いをしたんだなと思いました。私には、絶対に無理だなと思いました。

一人として同じ先生も生徒もいません。淑則先生も含めみんな一人ひとりちがうのが当たり前で、個性で特別な人なんていないと思います。だから、もし、困っている人がいたら、「大丈夫ですか?」「何かお手伝いしましょうか」と当たり前にかげられる人間になりたいです。そして、淑則先生のようにできないと思うようなことでもあきらめずに、最後までがんばろうと思いました。